

ウメにおけるクビアカツヤカミキリに対する ネット資材の防除効果

[分類] 普及

[所属名] 果樹試験場うめ研究所

[研究期間]

令和4～7年度

[背景とねらい]

クビアカツヤカミキリは幼虫がバラ科の樹木内部を食害する害虫です（写真1、2）。繁殖力が非常に強く、激しく食害された被害樹は枯死に至ります。2019年に和歌山県で初めて被害が確認されて以降、被害地域は拡大しています。2025年12月には印南町でも被害が確認されており、今後、みなべ町、田辺市以南の地域への被害の拡大が懸念されます。そこで本研究では、ネット資材を用いたウメでの防除方法の確立に取り組みました。

写真1 樹皮上で交尾する成虫

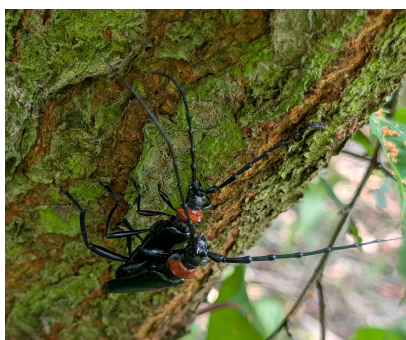


写真2 形成層を食害する幼虫



[研究の成果]

1. ネットを樹体に密着させて被覆した場合、4mm目合いのネットよりも0.3mm目合いネットの方が樹皮上への産卵数が少なくなりました。樹皮とネットの隙間を1cm程度空けて被覆した場合、4mm目合いおよび0.3mm目合いネットのいずれも樹皮上の産卵数が少なくなりました（図1）。
2. ネット上に産卵された場合、4mm目ネット隙間あり区および0.3mm目ネット被覆区では樹体への幼虫の食入は認められませんでした（表1）。

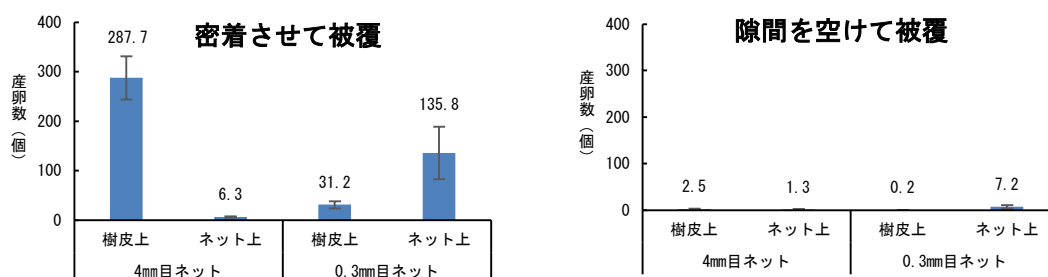


図1 ネットの目合いと被覆方法の違いによる産卵抑制効果

注) 4mm目合いまたは0.3mm目合いのネットを被覆した枝を飼育容器に入れ、交尾済みの雌成虫2頭を7日間放飼した後、樹皮上およびネット上における産卵数を計数した（n=6）。

表 1 ネット上に産卵された場合の食入防止効果

試験区 (ネットの目合・被覆方法)	供試 卵数	ふ化 卵数	ふ化率 (%)	食入 幼虫数
4mm・2重隙間なし	90	78	86.7	4
4mm・2重隙間あり	90	83	92.2	0
0.3mm・1重隙間なし	90	81	90.0	0
0.3mm・2重隙間なし	90	81	90.0	0
0.3mm・2重隙間あり	90	77	85.6	0
無処理	90	78	86.7	38

注) 4 mm 目合いまたは 0.3mm 目合いのネットを被覆した枝に、紙片上に産卵させた産下卵を接種し、接種 30 日後にふ化率を、49 日後に樹皮を削り、食入幼虫数を計数した。

[成果のポイントと活用]

1. 4 mm 目合いのネットを、隙間を空けて被覆する、または 0.3mm 目合いのネットを被覆することで、クビアカツヤカミキリ成虫による樹皮上への産卵を抑制することができ、被害を予防できます。
2. ほ場のウメ樹にネットを被覆する場合には、4 mm 目合いのネットでは樹皮との間に空間をつくるスカート巻き（写真 3）、0.3mm 目合いのネットでは包帯巻き（写真 4）が適しています。
3. 剪定後に被覆することで省力的に作業が実施できます。



写真 3 4 mm 目合いネットによるスカート巻き

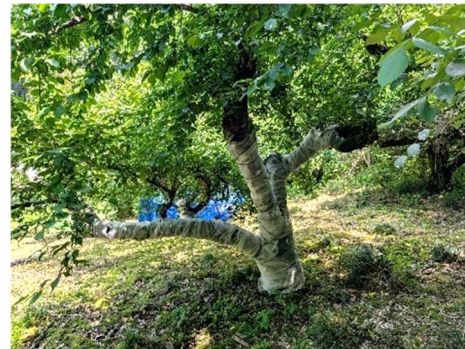


写真 4 0.3mm 目合いネットによる包帯巻き

[その他]

予算区分:国費(イノベーション創出強化研究推進事業) 問い合わせ先 TEL:0739-74-3780